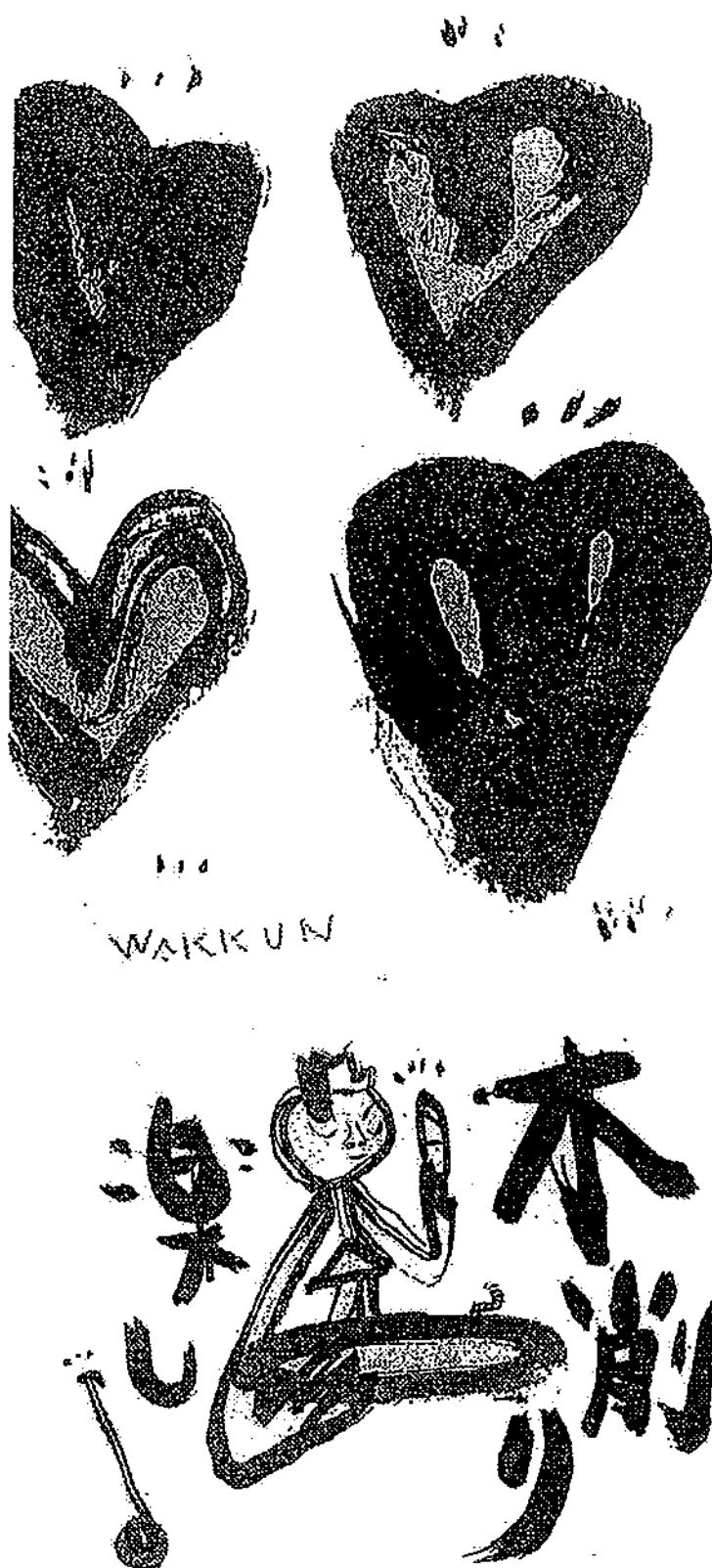


木削りのヨウさん



わくしま・かつみ 1950年
神戸市生まれ。個性的なイラストのファンは多く、WAKKUNの愛称で知られる。同市在住。

神戸新聞 2009.3月

シユツ、シユツと木を削る音だけが部屋の中をしている。十人ほどの人が輪になり、それぞれ自分の手に屋久杉や一本やレッドウッド等、十種類ぐらいある木切れの中から好きなものをひとつ選んでぎりしめ、切り出しナイフで削っている。これは西元町の歌咏いの友人のアトリエ。加古川や広島、地元神戸、いろんな所から集まって、ただひたすら十枚二三十枚ぐらいの木切れを削っている。今回の参加者は女性が多く、削るのを手伝つてほしいと思った女性が手をあげて、木削りのワークショップをしている木削りマスター・渕本ヨウさんに会面する。

ヨウさんがシャンケンをする。ヨウさんがシャンケンになると、ヨウさんがシャンケンに負けると、「あなたの工芸ルギーは、まだ強いのでそのまま木削りを続けなさい」と言う。逆にヨウさんが勝つと、手をあげた人の木削りをとり、木削りを手伝うといつても不思議な光景だ。

「仕上がりの形を考えず、木と心で話しながら削っていくと木がよろこんでなりたいと思っている形になりますので……」とヨウさんは削っている人達に声をかけていた。

ヨウさん自身が木削りをはじめたのは、自分が仕事のストレスから不眠症になり、休職している時に幼な

木削りマスターになつたのだ。

「頭ではなく、いつも自分の心と話をしてください」とヨウさんはボクをしていた。

木削りでもしたら」と送ってきた。入りたりぬるめたり木を窓がえした切り出しナイフを手にしたのがきっかけだった。公園でひらつてきた木切れを、夜、削つているうちに心が安らぎ、檠も放まなかったのに、すっと眠れたことによどろき、毎日、木を削つてゐる間に不眠症がなおつてしまつたのだった。そして、そのステキな木

削りをたくさんの人達に伝えようと木削りマスターになつたのだ。

木削りマスターになつたのだと、ヨウさんは手さわりから「べちゃん」という、名前を付けた。

「頭ではなく、いつも自分の心と話していると本来の自分自身に戻れる」と、自分自身が好きになつてゆく。

輪になつて座つている参加者が順番に自己紹介をしてゆくのを、耳で聞きながら、なぜかボクの手は力わいい深い時間だった。

涌嶋
克己

